

NEWS LETTER



NO.26 2007.1.30

にほんごひろば岡本

発行：にほんごひろば岡本

〒658 - 0003 神戸市東灘区本山中町 4 - 18 - 22

☎078 - 453 - 5931

<http://www.kabto-yama.ac.jp/hiroba/>

学びたいと思う気持ちを大切に

にほんごひろば岡本に足を踏み入れ早4年が経とうとしています。

今までに中国・韓国・ベトナム・タイの方々6名と学習してきました。特に印象に残っているのは、最初の学習者中国人の韓さんです。

その頃彼は日本へ帰化したキャリアウーマンの奥様を支える「主夫」でした。奥様の願いは、今後ずっと日本に滞在し仕事も考えているので、日本語会話ができるようになってほしいというものでした。

日本へ来て5カ月。『みんなの日本語』8課からの引継スタートでした。私はその頃、養成講座で勉強しており、そこで得た知識をそっくりそのまま韓さんに伝えるという方法で学習していました。

ところが、8課から前へ進むことがなかなかできないのです。学習しても学習しても翌週になるとすっかり忘れておられ、また復習また復習の連続でした。私は頭を抱えました。どうしてなんだろう？ 何がいけないんだろう？ どうしたらいいのだろう？

そんな時、ふっと他の方々のレッスン風景が目に入ってきました。皆さん楽しそうに会話をしているのです。私は思い切って他の支援者の方々に聞いてみました。

すると、「その人その人に合ったやり方でやればいいし、学校ではないのだから学習者のニーズに応じてあげればいいのよ。会話だったら会話で終わってもいいんじゃないですか。大切なのは学習者が日本語に興味持って学びたいと思う気持ちを大切にしておることだと思いますよ」と言われました。

私はハッとしました。自分の押し付けで進めていたからです。その後はテキストを殆ど使わず、韓さんの好きな釣りの話や滞在されている奥様のご家族の話など、会話中心のレッスンに移行してきました。

彼はだんだん会話が上手になり、1年半をすぎころには就職も決まり、2人で喜んだことを覚えています。それ以後、彼の仕事が忙しくなり学習支援は終了しました。

私は彼から多くを学びました。それは、ひろばの暖かい家族的な雰囲気という環境があったからこそだと思っています。

今でもこの経験は私の原動力となっています。（渡辺映子）

特別寄稿

日本ごひろば岡本のボランティアのみなさんへ

本山第二小学校国際教室担当 村山勇

今回は子ども向けの日本語指導で先に知っておくべきキーワードや私の工夫を紹介します。

(1)「生活言語」と「学習言語」

生活言語は生活するうちに身に付く言葉であり、短期間に上達します。**学習言語**は、場面の依存度が弱く抽象的です。計画的に指導されなければなかなか身に付きません。日本人の大半が長い間英語教育を受けてきても、英語で平行四辺形と言える人はわずかしかないでしょう。よく「この子どもはぺらぺらしゃべれるけれど、勉強はできない」と言われるのは、生活言語は身に付いているが学習言語が身に付いていない例です。これを、「しゃべれるから日本語指導はもう必要ないとか、しゃべれるのに勉強できないのは能力が低いからだ」と言うのは間違っています。学習言語を計画的に勉強できるようなシステム作りや指導者の創意工夫が必要です。また、「しゃべれるようになるまで、教科学習はしない」と言うのも間違いです。子どもは、日本に来たその日から年齢・学力に応じた教科学習を始めなければなりません。母国でしていた「学ぶ」ということを日本へきた為に中断してはいけません。生活適応学習、日本語学習、教科学習、母語学習を**同時並行**でらせん的に始めましょう。

(2)「抽象的概念の獲得年齢の壁」

俗に「九歳の壁」と呼ばれるものです。小学校3年生ぐらいまでは、目に見える具体的な物が対象ですが、それ以降は、具体的でない物、抽象的な事柄についての学習が多くなります。そこで、小学校低学年には、楽しく具体的な方法で行い、それ以上の子どもたちには、抽象的な学習内容を分かりやすく噛み砕いて指導しましょう。また特に書き言葉や漢語が習得できるように力を入れましょう。高学年にとってもおもしろいことは必要なので、この境目はあいまいで斜めです。

おもしろい、呪文的

わかった・役に立つ、知的好奇心、意味ある繰り返し

(3)話しかけの原則:

簡単、ゆっくり、はっきり、実物、動作、

子どもに話しかけるときは、簡単な言葉をゆっくり、はっきりと話しましょう。実物や動作を示しましょう。この時、子どもに繰り返させることは大切ですが、できるだけ**意味ある**繰り返しになるよう場面の設定を工夫しましょう。また支援者がしゃべりすぎないに心がけましょう。

(4)日本語教授法

ここ10年ほどの間に、多くの大学に日本語学科ができ、民間の語学学校では日本語教師養成講座が盛んです。しかし、まだ小中学校では一般的な概念とはなっていません。日本語指導者は、**日本語教授法**を取り入れることと、それを**子ども向けに応用**することが大切です。教員、サポーター、日本語指導員、行政担当者、ボランティアも日本語教授法を学ぶべきです。横浜国大では教員免許の必須単位となっています。参考図書は（『外国語として日本語、その教え方・学び方』佐々木瑞枝、講談社現代新書）です。

(5)国語文法と日本語文法は違う

国語とは日本語の環境で育った者を対象としています。日本語の語彙が豊富にあり、自分で説明は出

来なくても、用法に慣れている者が対象となります。日本語とは「日本語を外国語として学ぶ者」を対象としています。日本語を客観的に分析することが必要です。例えば、次の表のように動詞の分類も異なります。

国 語 文 法	日 本 語 文 法
五段活用	グループ（あ段）
上一段・下一段活用	グループ（い段・え段）
か行・さ行変格活用	グループ（くる・する）

1 グループ動詞と 2 グループ動詞の区別（ない形）

（6）日本語文法の指導順

外国から来た子どもたちには、まずサバイバルレベルの日本語指導が必要です。「いい、だめ」、「分かる、分からない」などを状況と動作を付けて指導します。またすぐに必要な給食、体育、けんか、いい訳等の用語も始めます。この時は、丁寧な日本語よりも、友達にも通じる簡単な日本語を教えます。次に、詞の「ます形」から指導します。これは、「書きます、書きません、書きました、書きませんでした、書きましょう」など、語尾が規則変化するから初級者にとっては、覚えやすいのです。次に「普通形」を指導します。これは、不規則変化だから時間をかけます。

（7）「て形」

日本語文法では、「て形」は、特別に取り上げて教えます。私は、子ども向けに次のように替え歌を作って指導しています。て形の歌（A B C の歌は世界中にあるので替え歌に適している、村山勇案）

動詞の辞書形の末尾がこうなら、て形は、こうなります。（逆に歌うのも可）

「う・つ・る」は、「って」、 「む・ぶ・ぬ」は、「んで」
「す」は、「して」、「く」は、「いて」、「ぐ」は、「いで」ですよ。（ここまで グループ）
「いって」（グループの例外） 「みて」（グループのい列）
「たべて」（グループのえ列） 「きて」「して」（グループ）
「おぼえて」（グループのえ列） （成人向けのオーマイダーリンは子どもには難しい）

（8）形容詞など

国語文法の形容詞、形容動詞は、日本語文法では「い形容詞」、「な形容詞」と呼んでいます。形容詞も活用するところが日本語の大きな特徴であり、外国から来た子どもたちにとっては非常に難しいです。そこで絵カードを作り活用形を繰り返し練習しています。

（9）「子ねた」と「子技」

「子ねた」とは、日本語教授法を子ども向けに応用した題材です。

「子技」とは、子ねたをおもしろく効果的に実行する方法や工夫のことです。例えば、

- ・動詞カード：表にイラスト、裏に「辞書形」、「ます形」、「て形」
- ・形容詞カード：表にイラスト、裏に「辞書形」、「ない形」、「て形」
- ・双六：暑いので窓を開けました。等の形容詞と動詞の組み合わせのイラストを多数描き、双六をします。
- ・文作りさいころ：「いつ」を六場面描き込んださいころを作ります。同様に、どこで、だれが、なにを、どうした、のさいころも作ります。それぞれを組み合わせ文を作ります。
- ・文作りルーレット：双六と同様にいろいろな場面の絵を用意し、取りかえられるようにしておきます。

・替え歌

動詞活用歌 (ABCの歌の替え歌、Aの人とBの人のかけあいで歌う)

ます形	A かく 辞書形	A か <u>き</u> ます	A か <u>い</u> て く <u>だ</u> さい	B か <u>き</u> ません	A か <u>き</u> ま <u>し</u> ょう	B か <u>き</u> ま <u>し</u> た
普通形	A か <u>け</u> る	A か <u>い</u> て <u>る</u>	A か <u>い</u> て	B か <u>か</u> ない	A か <u>こ</u> う	B か <u>い</u> た
命令・使役 等	A か <u>け</u>	B か <u>き</u> た <u>く</u> ない	A か <u>け</u> ば	A か <u>か</u> せる	B か <u>か</u> れる	B か <u>か</u> さ <u>れ</u> る

- ・V T法：わらべ歌のリズムに合わせて、手を動かします。「おじさん」と「おじいさん」など、外国人児童の苦手な長音の区別にも使えます。
- ・TPR法：身体反応法と言われるものです。「たって、すわって、みて、よんで」等、言葉に反応して動きながら、自然に言葉を覚える方法です。
- ・50音図を縦に言い逆にもどる(かきくけこ・こけくきか) 横に言う(いきしちにひみいりい) 等です。これは、やがて辞書を引く時、役立ちます。
- ・一息で三回言って：「こっち来て、これ聞いて」「これ着て、これ切って」等ミニマムペアの練習になり、おもしろいです。
- ・カードの技法：ただカードで練習するだけでなく、入れ替え、抜き取り、追加等いろいろ工夫できます。
- ・簡単な手品は、子どもの興味を引き付けます。ぜひ身につけましょう。

(10) 漢字指導

非漢字圏からの子どもには漢字の300字の壁がある。(波多野ファミリスクール大蔵氏)とされています。そこで、次のような教材を作って指導しています。

- ・1字で意味のある字(表にイラスト、裏に読み)日、木、月など
- ・漢字を偏と旁、冠、によろ等で切り離し裏にマグネットをつけたジグソーパズル(裏に読みがな付き)
- ・音読みと訓読みを熟語と文で(三月と月曜日など、表にイラスト、裏に読み)
- ・口唱法による筆順指導(たて、かぎ、よこ で 口、さん、ひと、ひ で 春)

(11) 作文指導

- ・イラストを参考に特定の語だけで作文する。
 - ・先に、テーマに関する単語、文型を与える。
 - ・マグネット付きの単語や助詞カードを大量に作っておき、それを使って文作りをする。カードの入れ替えが可能なので作文が作り易くなる。
 - ・いつ、どこで、なにを、どのように、どうしたを確認してから書かせる。
 - ・毎回、次のような感情語(うれしい、楽しい)「 」(人の言った言葉)() (人の思った言葉)を入れるようにさせるなどの段階的指導をする。
 - ・定番表現の書き写し(行事作文など)
 - ・母語作文もすすめる。(母語刺激を与える、母語が伸びれば日本語も伸びる)
 - ・インターネットの「作文メールマガジン」の各種の作文方法を活用している。
- みたこと、うそ、再話、五七五、ラブレター、げらげら、数字、なぞなぞ等

(12) 音読指導

国語の教科書を音読し、それをカセットテープに録音して子どもたちが家庭で練習できるようにす。その際に、音読の方法としては、「文節読み・同じ長さの空白」、「一文読み・同じ長さの空白」、「シャドーイング」を取り入れる。

(13) 日本語教材作成のための留意点（又は作成された教材の評価の観点）

- ・字体は、できるだけ教科書体に近づけます。（き、さ、で、む、り等）パソコンなら教科書体のフォントを入れましょう。
- ・初期には、文字数と同じ書きこみの枠をつけます。拗音は小さい枠にします。（ ）では、難しいです。
- ・イラストは、単純で一つの意味しかないもの、子どもの生活に近いもの、誰が見てもそう思える妥当性のあるものを著作権に留意して、イラスト集から選ぶか自分で描きましょう。
- ・練習ワークシートは、線で結ぶ、色を塗る、迷路にするなど楽しく作業しながら、力がつくように工夫しましょう。子どもができる分量も考慮しましょう。
- ・ある母語の子どもは特定の誤りをするので、母語別誤り矯正・母語発想の問題を作りましょう。（leg と foot、かぶる・きる・はく、自・他動詞、男性・女性名詞の区別等）

(14) 日本語教授法を加味した教科学習の方法

- ・横浜国大の研究冊子からは、「文章題の日本語を簡略なものに言いかえる。複文を短文にする。キーワードを強調する。省略してある助詞を補う」等のヒントがあります。
- ・国語の読み取りでは、岡山大学で、リライトが研究されています。これは、物語や説明文の本文を簡単に書き換えダイジェスト版を作り、より子どもが分かりやすいようにする技法です。
- ・「読書へのアニマシオ」も、子どもを読書好きにする様々な技法が示されています。たくさんの方が市販されています。
- ・これらは、日本の子どもを含めて全ての子どもたちに役立つのです。

(15)兵庫県でも、学校へ日本語指導者が派遣される制度ができました。これは母語話者ではなく日本語で日本語を教える技術者の必要性が理解されてきたということで喜ばしいことです。県教育委員会の日本語ボランティア養成研修を受け、登録します。近くの学校から要請があれば紹介され、条件は学校と交渉するという制度です。ぜひ、応募してください。

(16) 参考となるホームページ

多文化支援ネットのガイダンス http://homepage3.nifty.com/tabunka_kodomo_shien/

中国ロシア帰国者センター <http://www.kikokusha-center.or.jp/>

早稲田大学、川上研究室

<http://www.gsjal.jp/kawakami/index.html>

波多野ファミリスクール <http://www2u.biglobe.ne.jp/~okr/>

海をわたって 福永純子 <http://www.ztv.ne.jp/junko-f/>



支援者自己紹介

今回は昨年 12 月のスピーチ大会に参加してくださった新しい学習者 3 人（ビクターさん・井上リサさん・トリカさん）の「新しい支援者」3 人に自己紹介をしていただきます。

マッカイ・みどりさん パワー フル回転で

みなさん、こんにちは！

笑う、歩く、食べる事が大好きで元気だけが、じまんのマッカイみどりです。去年の 10 月からビクターさんを支援しています。毎週水曜日の午前中、楽しくにほんごの勉強のお手伝いをさせていただいています。ビクターさんのにほんごはあまりにも上手なので教える・・・と言うよりもお手伝いをさせていただいている・・・という感じで



レッスンを進めさせていただいています。

私は、そうですね... かれこれ 18 年ぐらい前に日本でニュージーランド人の主人と知り会い、その時から改めて英語の勉強をもしはじめました。みなさんもお存知のように、日本の学校教育ではだいたい 10 年間英語を勉強する機会があるにもかかわらず、なかなか話せないのが現状です。私もその中の 1 人でした。ですから学校を卒業して社会人になってから新たなチャレンジを試みました。他国の言葉を学んでいくことは難しいことでしたが、色々な人と出会って、外国の文化も学べて自分の世界が広がって勉強する楽しさがわいてきました。それと一緒に今まで当たり前に生

活してきた日本や日本語についても考える様になり、去年、初めてニュージーランドの高校で日本語クラスのアシスタントをしてみたところ、日本語を熱心に学ぼうとしている生徒達の姿に自分も他国のことばを身につけたい 1 人の姿と重なり、是非、日本語を勉強したい人たちの協力をしたいと思いました。これからも、私のもってる知識とパワーをフル回転させて皆さんの応援をしていきたいと思っていますので、日本語に自信がなくても気軽にどんどん話しかけてみてください。また、他の日本語ボランティアのお話を聞いたりしてもっと自分に磨きをかけていきたいと欲張っています。どうぞよろしくお願い致します。

窪田 緑さん 一緒に成長していきたい

はじめまして。昨年 11 月から、タイ出身の井上リサさんの学習のお手伝いを始めた窪田です。

昨年、サンクス（NPO 法人実用日本語教育推進協会）の講習を受け、その後、先輩の吉岡さんからにほんごひろば岡本を紹介していただきました。日本語ボランティアになりたてのほやほやです。



リサさんはとてもまじめで熱心な生徒です。日本人のご主人と小学生の子供さんがいらっやいます。10 年ほど日本に住んでおられるので、話し言葉はとても上手です。わたしにとって初めての生徒さんが、日本語が上手なので、お互いにコミュニケーションがよくとれるからよかった！！と、ほっとしましたが、いざ学習を始めて

みると、このようにコミュニケーション力が十分ある学習者に、より母語的な日本語を話せるようにお手伝いするには一体どうしたらいいのだろう？と、難しさを実感しているこのごろです。先輩の方々、アドバイスをよろしくお願いいたします。

リサさんは、味噌汁のだしを鰹節でとり、そばつゆも自分で作るという料理上手なお母さんです。タイ料理も上手そう！今度教えてもらわなくちゃ！！

先日、年忘れお楽しみ会に参加しましたが、他国の人と会って日本を客観的に見る事が出来て、とてもよい経験になりました。新しい刺激を受けて、リサさんと一緒に成長していきたいと思っています。そしてリサさんのふるさとタイに行ったらリサさんの話に出てきた‘めっちゃ可愛い象さん’に是非会いたいと思っています。

美間智子さん

思わぬ質問にますます楽しくなって

トリカさんの学習支援をしている美間（みま）智子です。ここで学習支援を始めたのは、トリカさんが学習を始めたのと同じときなので、私も毎回いっしょに勉強させてもらっています。支援を始める前からも独学で勉強はしていましたが、実際に教えていて思わぬ質問をされるたびに、なるほど、そんなふうに考えるんだ、とますます日本語学習が楽しくなってきます。



大学では言語学を専攻していて、日本語教師になる友達もいたのですが、その頃は日本語教育についてはそれほど興味はありませんでした。ただ、言語が好きなので、いまでも、家でコンピュータマ

ニユアルの翻訳の仕事をしたり、英会話学校のバイトをしたりしています。日本語教育に興味を持ったのは、バイト先の英会話学校のあるアメリカ人講師とのことがきっかけです。彼は日本人女性と結婚しており、日本に来てから日本語を学習していました。学校のテストの話を聞いたり、質問をされて悩みながら答えたり、わかってくれたときのうれしそうな顔を見たりしていて、日本語のことを自分が説明できるほどわかっていないことに気づき、それを学びたいと考えている人にうまく説明できるようになれたらいいな、と思うようになりました。また、旅行が好きなので、海外で困ったときにその国の人に親切にもらった経験もいくつもあり、自分も、自分の国にいるときに、訪れている外国人の方の役に少しでも立ちたい、という思いもあります。

ここでは、いろんな国の人やいろんな考え方の人に会えるので楽しいです。これからもうよろしく願いいたします。

がくしゅうしゃしょうかい 学習者紹介

趙 惠玲ちゃん（中国出身・女性）

電車通のスポーツ少女！

惠玲（エーレン）ちゃんは中国から来た女の子です。日本に来て6カ月が経とうとしています。ピンク色が大好きな目のくりっとした、とてもかわいい女の子です。かわいらしい見た目とは裏腹にテニスやバレーボールを得意とするスポーツ少女でもあるんです！！日本に来て、初めて体験した運動会（エーレンちゃんの通っていた中国の



小学校にはなかったそうです)では、彼女の赤組が快勝したそうです。リレーや応援合戦がとても楽しかったと話してくれました。

このほかに、日本で初めて体験したことは電車に乗ったことだそうです。初めて乗った電車は地下鉄だったらしく、景色が見えないから最初はとても怖かったと話していました。

そんなエーレンちゃんも、今では毎日地下鉄で学校まで通い、JRで「ひろば」まで来られるようになりました。エーレンちゃんのお気に入りには阪急電車だそうです。座席が他の電車よりも柔らかくて気持ちがいいのが理由だとか。すっかり電車通です。

日本で迎えたお正月には家族や友達と初日の出を見に六甲山へ登ったそうです。年明けから元気いっぱいなエーレンちゃんです。今年も、いろいろな体験談をはなしてくれることを楽しみにしています。(山本温子)

支援者のひろば

スリランカ訪問記

またひとつ、好きな国ができました。

平松 久

2006年9月9日から9月16日の日程でスリランカへ行ってきました。

ホームステイ、格安英語レッスン、日本語ボランティアという内容のプログラムを見つけてこのツアーに申し込みました。今までは移動型の旅行が多かったのですが、一度ホームステイをして現地の人とゆっくり色々な話をしてみたかったのです。

私のスリランカのイメージといえば、「子供の

頃に見たカッコイイ国旗」、「紅茶の産地」、「カレーの国」、そのくらいでしょうか。ですから、スリランカという国はあまり知りませんでした。場所はコロンボから車で2時間くらい、カダワタにある村でした。初日に歓迎のミルクライスなるものを出してもらったのですが、一緒に食べる唐辛子のカレーがとにかく辛い。汗をかきながら食べていたのですが、これはスリランカ人でも辛いそうです。右手を使うという食べ方が初めての私は、指でご飯を固めて、カレーをまぶして口に運んだのですが、これが違っていたのです。このカレーはご飯の中に入れて舌に触れないようにして食べるんだそうです。ちなみにその後の食事は辛さを抑えたカレーになりました。たまに辛めのカレーになった場合は、チリを抜いて食べるように言われました。よほど辛い顔をしていたみたいです。

メインはステイ先での英語レッスン。近所に住むスリランカ人教師に習います。スリランカはシンハラ語、タミル語が公用語で、ビジネスでは英語を使うのだそうです。みっちり一日6時間、色々なテーマでディスカッションします。宗教のこと、経済のこと、教育制度についてというものもありました。

先生に言われたことは、

「文法のレッスンはいいでしょう。ヒサシに必要なのはたくさん話すことよ。ここの息子と話さない」

しかし、息子さんが私の滞在期間の途中から旅行に出かけるというので、新婚の娘さんが交代で滞在してくれました(彼は最終日、まさに家を出発する直前に私へのお土産を持って駆けつけてくれました。今もメールをしています)。

レッスン以外の時間は家族とおしゃべり。娘さんも話好きで、色々な話をしました。

「母国語だけで生活できる日本がうらやましい」

職場以外では英語を使うことがないので、自然に英語が生活に溶け込んでいる感覚は無いようです。

「どうしてあなたのノートには日本語翻訳をつ



けるの？」

と、疑問に思ったこともないような話が出たり
「海外でボランティアなんて時間を無駄にしている？ 幸せは結婚でしょ？」

なんてグサッとくるような話まで。

お父さんは、

「英語レッスンはいいから、スリランカ観光しな



さい。果物もたくさん食べていきなさい」

「私は子供たちにいくらでも投資するんだ。彼らは頭がいいからどんどん出世させてやりたいんだ」

「36歳のお前に言うのは申し訳ないけど、少し年上の私の話を聞きなさい。BIG MANになるな、GOOD MAN になれ。威張る人間じゃなくて親しい人になれ」

と、このあたりは日本とあまり変わらないなと思いました。

食べ物に関しては、とにかく果物がおいしい！色んなバナナがあって、それぞれ風味が違う。パパヤ（パパイヤと発音すると通じなかった）は初めてだったので、「うまい！」って感動していたらその後、何度も出してくれました。実際、パッションフルーツもカカオも本物の実を見たことがなかったものなので、全てが新鮮でした。日本の名誉のために言いますと、スイカは日本産のほうがいいですね。日本の農家、がんばってます。

お母さんには、

「前に来た日本人は、チャーハンを作ってくれた。あなたも料理が好きなら何かできない？」とリク

エストされました。醤油はある、スーパーで煮干を見つけた、よし！今夜は肉ジャガ（この家族は牛は食べないから鶏肉で）と親子丼を作ろう！家族総出でキッチンに集まり、準備にかかったのですが、娘さんとスシの話をしていたせいか、最後まで「ヒサシ、酢はいつ使うの？」と聞いてきました。食べたかったんでしょうね。あと一週間いたらチラシ寿司にチャレンジしていたんですがね。ここのお母さん、ケーキ作りの名人、頼まれたら焼く人で（お金を貰うのでプロですね）、帰りのお土産にココナッツ風味のケーキを戴きました。

さて、最後に日本語ボランティア体験を。

当初、スリランカ内戦事情のため、学校に入れない状態でした。ボランティア企画がどんどん断られていたのです。しかし、現地コーディネーターが無理なら家族であたってみるなど手を尽くしてもらって、最終的に英語の先生の兄弟が交渉してくれた地元の Vihara Maha Devi School という女学校に行きました。ステイ最終日、1コマの体験です。日本語が必須なクラスで、担任の先生（スリランカ人）に打ち合わせなしで「自由に教えてください」と言われて困ったので、まずいつもの授業を進めてもらいました。漢字をスラスラ読むので驚きました。日本で言うと2級くらいのレベルでしょうか。

自己紹介の後、「訊きたいことはありますか？」と問いかけました。そしたら、

「茶道、短歌、俳句について教えてください」

ここは正直に答えよう。

「茶道は一度しか習ったことがありません。その話でいいですか？」

途中何度も話が難しくなっていないか、尋ねながら進めました。お茶会できる時間が欲しかった。学校にいる間、同行してくれた英語の先生とは英語で、学校の先生とは日本語でちょこちょこ話すのには、言葉の切り替えに苦労しました。日本語を習っている広場の皆さんの努力がよくわかりましたよ。

終業のベルが鳴り、次のクラスへ急ぐはずの生徒たちがノートを持って近づいてきました。

英語の先生が言いました。

「あなたのサインが欲しいのよ」

え？ 私なんかのサインが欲しい？ 女学生にサイン求められるなんて人生唯一の瞬間でしょうか。

そして、「何カ月いますか？」「スリランカにまた来ますか？」「スリランカは好きですか？」と話しかけてきます。そう、学校には日本人がいないので、もっとネイティブと話してみたかったようです。

当初聞いていたように親日的な国なんですね、スリランカは。家の近くの私立学校の前を通っても、チビッ子たちが「Japanese!」と手を振って集まってくれたし、バスに乗っても周りの人は微笑んでくれました。今回の旅行ではその他、低開

発村視察団に同行するというプログラムもあって、職業訓練校や事業を始めた卒業生を訪問しながら、スリランカの経済についても詳しく教えてもらいました。この話は機会をあらためようと思います。

とにかく、とにかく盛りだくさんの一週間でした。またスリランカへ行きたいですね。お世話になった家族にたくさんのお土産を持って、彼らお勧めの観光地 Kandy にも行って、そして私ができる支援活動も。

「お父さん、今度は日本酒わすれないからね」

みんなのひろば

ひろば 2006 年イベントレポート

バーベキューパーティー（2006 年 10 月 7 日 芦屋奥池遊びの広場）

前日からの悪天候で開催が危ぶまれましたが、何とか終了まで、空はもってくれました。強風・突風の中でも縄跳びやバレーボールなどで楽しみました。ひろば



恒例になりつつある「じゃんけん長者ゲーム」は安さんの「一か八か」の作戦勝ちでした。

年忘れお楽しみ会（2006 年 12 月 17 日）

2006 年の最後を飾るイベントは大寒波の日曜日に行われました。今年は昨年を上回る総勢 80 名の大パーティーになりました。例年通り、食べ物や飲み物を支援者・学習者の方々のご好意で用意していただき、豪華なテーブルが出来上がりました。

今年のパーティーはまず、高



山先生指揮の「ボイス・アーツ・アンサンブル」による素敵な合唱で幕を開けました。彼女らは武庫川女子大の音楽科の学生さんたちで、小学校や介護施設などをボランティアで訪問されているそうです。私たちのリクエストの「ジュピター」や「大きな古時計」も一緒に歌っていただき、とても楽しいオープニングでした。皆さんとっても可愛く





て、特に男性陣の目が輝いていましたよ。

飲食・歓談の後、ひろば恒例の「スピーチ大会」が行われました。今年は6人の参加で、それぞれ、興味深い内容でした。最優秀者は子どもの頃から漢字を学習している日本人とそうでない欧米人の表現力の違いを話してくれたウィリアムさん、富士山に登った経験を自分の言葉で一生懸命話してくれた朴さんが受賞されました。(写真10頁下)

スピーチの審査結果が出るまでの間、台湾からの学習者のフィーチャーとチャーリン姉妹とその支援者の山口さ

んがケーナとフルート・バイオリンで、ピノキオの主題歌の「星に願いを」披露してくださいました。なかなか一緒に練習できない中で、素敵なパフォーマンスでしたよ。

さらに、今年は支援者の吉田さんと山中さんご友人による大道芸(南京玉簾・皿回し)のパフォーマンスも披露されました。学習者にとっては大変珍しいものなので、びっくりしながらも興味津々で、特に皿回しは体験希望が殺到して大盛況でした。



スピーチ大会出場者の横顔

想定外 ウィリアム・マーカンドさん(イギリス)

日本の文化やことば・漢字の素晴らしさを再認識しました。

私たちも想定外でした。(写真は10頁下の左)

韓国のお正月 李 浩淵さん(韓国)

家族を大切にする韓国の人たちの様子がよく分かりました。



日本人の性格が与えた影響 トリカ・ピタナさん(インドネシア)

インドネシアでの日本人の評価・影響など、来日間もないのに一生懸命話してくれました。



ビクターの日本の生活 ビクターさん(香港)

バンドマンの夢に向かって頑張ってく

ださい。

初めての富士登山 朴 鍾日さん(韓国)

貴重な体験、帰国しても忘れないでください。今度はきれいな富士山を遠くから眺めてはどうですか。(写真は10頁下の右)



日本に来て感じたこと 井上リサさん(タイ)

日本の四季の花の名前をたくさん覚えてください。



お知らせ

2006 年度ステップアップ講座

今年度も昨年同様、5回の講座を下記の日程で行います。前回に引き続き「実際にすぐ役立つ教え方」として、『みんなの日本語初級』を毎回2課ずつ丁寧に解説し、具体的な教え方をまじえて実習します。今回は前回の続きで「みんなの日本語」38課～45課を予定しています。オープン講座ですので、支援者のご友人などにも声をかけてあげてください。1回ごとの参加もOKです。詳しくは「にほんごひろば岡本」西村まで。

〔講座日程〕

2007年2月10日(土) 午後1時30分～3時30分 『みんなの日本語』第38・39課

2007年2月24日(土) 午後1時30分～3時30分 『みんなの日本語』第40・41課

2007年3月10日(土) 午後1時30分～4時過ぎ さまざまな交流の仕方、「ポートフォリオの使い方などについて」(講師・尾形文先生) 引き続き支援者交流会

2007年3月24日(土) 午後1時30分～3時30分 『みんなの日本語』第42・43課

2007年4月14日(土) 午後1時30分～3時30分 『みんなの日本語』第44・45課

* 回目の3月10日(土曜日)は、以前、NEWS LETTERでも紹介しました「ひろば」の支援者OGの勝島千晶さんが活躍されている「おのみち日本語教室」の支援者数名が交流会に参加される予定です。

* 『みんなの日本語』を使っの講座の講師は森下早苗先生他1名を予定しております。

* 参加費として、1回500円のご協力をお願いいたします。

CONTENTS

特別寄稿 にほんごひろば岡本のボランティアのみなさんへ 村山勇先生.....2

支援者自己紹介.....6

マッカイ・みどりさん 窪田緑さん 美間智子さん

学習者紹介.....7

エーレンちゃん

支援者のひろば.....8

スリランカ訪問記 平松 久さん

みんなのひろば.....10

B B Qパーティー・年忘れお楽しみ会・にほんごスピーチ大会

お知らせ.....12

ステップアップ講座・支援者交流会

〔編集後記〕 今号も前号に引き続き「兵庫ボランティアネットワーク」の村山勇先生から具体的なお話をいただきました。子どものみならず、大人の学習支援にも大いに役立つと思います。2月からはステップアップ講座も予定しています。寒さに負けず、スキルアップで素敵な春を迎えてください。今年もお花見ありまーす。(I・M)